

## 研修報告

### 総務常任委員会

#### ●研修目的

△自主防災組織の活動

#### ●研修地

△京都府 八幡市

#### ●研修結果

八幡市は京都府の南西部に位置し、面積は約24平方キロメートルと本町と同様小さい市です。

京都市、大阪市という二大都市の中間にあり、住宅適地として脚光を浴び人口が増えはじめ、昭和52年に市制を施行し、現在、人口約73,600人、世帯数29,900となっています。

平成7年1月に発生した阪神淡路大震災を契機に、防災の重要性が再確認され、翌年の3月に第1号の自主防災組織が結成されました。

現在、結成状況は40地区で結成率は92%です。毎年自治会長等の交替

があり、自主防災組織の維持や引継ぎに苦勞する組織が多くなり、そのため、平成10年に自主防災推進協議会を設置し、毎年5月に全体会議を開き、事業計画を定めて自主防災組織のレベルアップと協力体制の確立に努めています。

また、意識高揚のため防災訓練を通じて、自分達が住む市街地そのものを訓練会場とする「防災対応型」総合防災訓練を学びました。

平成18年度まで行っていた。利点は、従来の見学的な防災訓練のイメージを変え、また防災訓練を、地域の住民が中心となって企画することにより、コミュニケーションづくりにより、立つこと、さらに災害時にどのような行動をしていけばよいか明らかに、防災まちづくりの大きな力になったことなど、今回の研修で多くを学びました。

### 文教常任委員会

#### ●研修目的

△地域管理による公民館の自主運営

#### ●研修地

△兵庫 尼崎市

#### ●研修結果

尼崎市は、大阪平野の西部にあつて、人口は約46万人です。

昭和11年にの1市5村が合併しました。

昭和16年に地域住民の身近な公民館として、合併時の行政区に、中央公民館と5地区公民館が設置され、その下に各町内会など自治区別に16分館が置かれています。

公民館の主な活動は、市民の自主グループ活動を援助し、育成を図ることとで、現在、公民館に登録されているグループは784グループ、登録者数約9千人で、年間利用者としては、約25万人となっています。また、グループの指導者数も5百人を超えています。

分館の管理運営は、それぞれ社会教育法に基づき、分館長1名を元市の職員や教職員を配置し、他の職員については、地域の人たちの自主的な活動・運営を行うため、管理運営協議会等を設け、地域の諸団体や地域住民が共同で管理運営を行っています。

立花西分館は、以前幼稚園であつた1階部分を分館として使用し、2階部分は、主に、不登校児童の教室として利用しています。

分館は、住民主導の公民館活動を行っており、地域住民のノウハウ、アイデアの柔軟な活用を取り入れ、人権に関する映画の上映や笑いで健康づくり等を目的とした、住民独自に実施しています。中央公民館及び地区公民館の6公民館は、すべて職員によって直営で管理運営を行っています。

①人件費の削減

②行政手続きの省略  
③地域住民による地域住民のための事業が独自でできる

デメリットとして

①一定水準の人材の確保が困難である  
②サービスの継続性、安定性が担保できない  
③管理運営の事務量が増えるなど

今回の研修では、生活様式の変化によって地域の人々の繋がりが閉塞した状況の中、地区公民館や分館に与えられた役割がいかに重要か考えさせられました。



総務常任委員会研修



文教常任委員会研修風景